

# 研 究 紀 要

## 美 術 工 芸 部 会

テーマ 「未来の美術教育の可能性について～ICTを活用した授業実践～」

|           |                              |                                                                 |
|-----------|------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 実践発表      | 「写真表現から考える美術教育の可能性」          | 県立青森東高等学校 益 山 里 奈…… 1                                           |
| 実践体験      | 「美術館とつなぐ鑑賞教育」                | 県立青森西高等学校 柁 木 富美子<br>県立青森中央高等学校 一 戸 香 織<br>県立大湊高等学校 漆 館 麻紀穂…… 3 |
| 報 告       | 「令和5年度高等学校各教科等担当指導主事連絡協議会より」 | 県立黒石高等学校 佐 藤 広 野…… 6                                            |
| 授業体験      | 「青森県立美術館との連携による鑑賞のオンライン授業体験」 | 青森県立美術館美術企画課 課長 工 藤 健 志…… 7                                     |
| 部 会 の 動 き | .....                        | 9                                                               |
| 研 究 テ ー マ | .....                        | 10                                                              |

紀要編集委員 佐 藤 広 野（県立黒石高等学校）

令 和 5 年 度

青 森 県 高 等 学 校 教 育 研 究 会

## 実践発表 1

### 「写真表現から考える美術教育の可能性」

発表者： 青森東高等学校 益 山 里 奈

#### 1 はじめに

本校では ICT 活用の一環として Classi 及び Google Workspace を利用している。生徒には iPad(第7世代)が配布され Wi-Fi も各教室に配置されているが、教員分の端末が不足しているなど課題もまだ多い状況である。本校の美術科においては主に Google Classroom を使用しており、主な使用方法としては、①課題機能による作品の集約・評価、②カラー資料の配布、③授業導入時のミニ鑑賞の実施、④個々人への連絡などが挙げられる。

#### 2 実践の記録

##### (1)実践内容 1～写真の活用に関する問題提起～

本校では令和4年度の美術Ⅰのまとめとして「内面を見つめる～アートボックス制作～」を実施した。本題材はアートボックスを〈箱・枠・窓〉に見立て、その中にある「私」を表現するという自画像の題材である。高校生にとって自画像は抵抗感を抱きやすい題材であるため、本題材では写真を活用し、「自撮り」と称した自分自身の撮影を通して作品の構想を練ったり、写真を制作に活用することで問題の解決に取り組んだ。アンケートも実施した結果、写真の活用によって技術的な抵抗感は軽減したが、そもそも「描くこと」よりも「自撮り」という行為自体に抵抗感を抱く生徒が多いということが分かった。

この自画像と自撮りの関係性については現代アーティストの森村泰昌氏も言及している。森村氏は写真評論家の鳥原学氏の言葉を引用しながら、現代社会は流動的で不安定でありアイデンティティも短期的に変わらざるを得ないということ、軽いフットワークで流行の波に乗ることが時代を生き抜く知恵であると論じている。これらのことから、生徒にとって写真(映像メディア)は指導者が想像する以上に重要な自己表現手段であり、社会の変化に応じた美術教育の在り方の模索が必要であることが分かった。

##### (2)実践内容 2～機材性能の確認と写真表現の模索～

生徒達に配布された iPad の写真機能で、どの程度の表現の工夫が可能なのか探るため「光と構図を見つけよう～写真表現～(全1時間)」を実施した。

本題材は、写真家の菅原一剛の作品を鑑賞し、写真表現における光と構図・カメラアングルの工夫について学び、ソフトボールを被写体にして撮影を行う授業である。撮影後は簡単に鑑賞会を行った上で、写真の歴史と現代の写真の立ち位置を学習した。

#### 成果

- ・光や構図に関しては、iPad でも十分に表現の模索が行えることが分かった。
- ・iPad のスロー撮影機能を用いれば「時間」に着目した表現も可能であることが分かった。

#### 課題

- ・写真による自己表現の活動や、価値意識を深める活動が不十分だった。

#### 改善方法

- ・夏期休業課題にて自由に写真を撮影する課題を設けた。
- ・次年度は蜷川実花、林ナツミの作品を授業に取り入れ、写真表現を追求できるような授業を実施する。

#### 《授業の様子と作例》



### (3)実践内容3～デザインの学習における写真の活用～

写真は広告など情報を伝達するためのメディアとしても用いられるため、情報メディアとしての側面に着目した授業として「写真と文字で伝える～学校紹介ポスター制作～（全7時間）」を実施した。

本題材は、中学3年生に向けた学校紹介ポスター制作の活動を通して、普段何気なく見ているポスターがどのように工夫されているのかを知り、視覚伝達デザインを通じて情報を魅力的に伝えることができるようになるための授業である。

ポスターは大きな紙面で、伝えたいイメージ（目的）を瞬間的かつ直感的に人に伝える（機能）メディアである。本題材では、広告のターゲットを「中学3年生」、ポスターの使用場面を「体験入学」と具体的に設定することで、第三者の目が触れるものとして実感を持ちながら作品を制作できるように工夫した。また「文の里商店街ポスター企画」や、それから派生した「弘前ポスター展」などの作品鑑賞を通して、制作の過程から生まれるコミュニケーションの大切さも伝え、生活や社会を豊かにするデザインの役割についても学習する。

研究テーマとの関連性としては、写真の活用のほかに、Google スライドの活用が挙げられる。Google スライドはGoogle が提供するウェブベースのプレゼンテーションプログラムである。Google クラウドも用いることで教員の作成したテンプレートの配布、完成作品の確認・提出・評価も容易に行うことができる。また、今回制作するポスターはメインビジュアルに写真を使用し、キャッチコピーやボディコピーなどといった文字を配置する簡単な構成のものであるため、スライドの機能性でも制作できると踏まえ実験的に使用した。

#### 成果

- ① メッセージを伝えるための視覚伝達デザインの創意工夫について学習することができた。
- ② 肖像権や個人のプライバシーについて実感を持って学習することができた。

#### 課題

- ① 生徒が肖像権を意識しすぎてしまい、極力人が写らない写真にするなど表現に影響が出てしまった。
- ② 学校内外において、どの程度まで撮影して良いのか許可の範囲を探っていく必要がある。
- ③ 色彩・タイポグラフィ・文字のデザインなどを別途学習した上での実施が望ましかった。
- ④ Google スライドでの操作性にかなり問題性があった。
  - ④-1 Google スライドのブラウザ版とアプリ版で操作性・機能性が若干異なった。
  - ④-2 iPad での操作性が想定以上に悪かった。

例：拡大縮小のためのバウンディングボックスの選択ができない、ネットワークが重くなる。
  - ④-3 Google スライドが日本語に対応しきっておらず、不便な部分がある。

例：縦書きができない、フォント名が全て英名で分かりづらい。

#### 改善方法

- ① 写真表現をより追求できる授業を展開し、その面白さを学んだ上で肖像権の学習を行う。
- ② 撮影の許可範囲は学校でも手探りの状況であるため、今後も検討を続ける。
- ③ 次年度はそれらも実施した上で、デザインの総まとめとしてポスター制作を行う。
  - ④-1 授業者が機能性を熟知した上で適切な手段を選択する。（今回はブラウザ版を使用）
  - ④-2 スタイラスペンを活用することで細かい作業に対応する、撮影データを縮小する
  - ④-3 iPad 上で描いた手書き文字であれば簡単に挿入できることが分かったので、キャッチコピーは文字のデザインを考えて挿入する。

#### 《制作の様子と作例》



# 「美術館とつなぐ鑑賞教育」

発表者：青森西高等学校 柁木富美子  
青森中央高等学校 一戸 香織  
大湊高等学校 漆舘麻紀穂

## 1 はじめに（ICT活用教育とは）

ICT活用教育とは情報通信技術を活用した教育であり、個別最適な学び、協働的な学びが可能である。これにより美術教育においても変化があった。新課程の教科書では、QRコードを用いたコンテンツ（音声ガイド、技法動画、作家関連動画等）が多数掲載され、今まで実演やビデオでしか伝えられなかった内容が、生徒個々のタブレットを通じて分かりやすく教えることが可能になった。

また、社会に浸透しつつあるWeb会議システムを使用すれば、授業の可能性は大きく広がるのが期待される。

Webツールの役割は大きく、授業で使用することで、教室内の生徒、他校、学校外（美術館、美術関係者）とつながる授業実践が可能となる。



図1：Webツールで可能になること

## 2 実証実験 PoC としての取り組み

ICT活用教育の授業実践として報告するためには、ICT機器、Webツールで何ができるかが明確に提示されなければならない。新たなアイデアやコンセプトの実現可能性、得られる効果などを実験によって検証することが必要である。これをPoC（Proof of Concept：概念実証）と言う。今回の実践はICT活用教育の研究授業として以下の項目の実証実験として取り組んだ。

- ①実現性：他校や美術館との連携授業が可能かどうか
- ②具体性：システム構築の実験・検証
- ③効果：オンライン作品鑑賞で美意識や創造性などを感じ取り美術文化について考えることができるか

## 3 美術館への依頼・会議の工夫・スケジュール



図2：実践スケジュール

美術館は「弘前れんが倉庫美術館」へ依頼をした。理由はむつ市と弘前市が遠距離であることから、遠隔地のこの学校でもオンラインの授業が可能であることを実証するためである。また、担当者同士も遠隔地にいるため、会議や打ち合わせの工夫をした。スケジュールについては図2を参照。

- ① Zoom 会議…事前に会議の案件をメールで送信し、会議の時間短縮を図った。
- ② GoogleClassroom の活用…仕事を共有するため、Classroom を活用し、協働で資料作成をした。
- ③ LINE の活用…細かな会議日程の確認、連絡、質問、返答をスピーディに実施した。

#### 4 システムの構築・費用

研究授業で美術館と3校を繋ぐ方法は画面共有でZoomとJamboardを利用した。費用は無料である。

- (1) Zoomで繋ぐ：各場所のZoom映像を大型モニターで教室に映し出す。
- (2) Jamboardで繋ぐ：各校ともに生徒は2～3人のグループを組み、各班で1台のタブレットを使用した。それぞれがジャムボードに接続し（美術館も）、リアルタイムで意見共有できる。

図3はシステムの概要図である。費用については、ヘッドセット使用の3DVR美術館鑑賞で、学校のWi-Fi接続ができないため、レンタルWi-Fi料金が発生した。（費用：無制限で2週間5000円弱であった。）



図3：美術館とつなぐ鑑賞教育（概要図）

#### 5 事前学習・模擬授業

事前学習は全部で3回、事前打ち合わせを複数回実施した。

- (1) 1回目：作品鑑賞 2月1日（水）  
内容：弘前れんが倉庫美術館について、タブレットで弘前れんが倉庫の3DVR美術館の鑑賞。  
目標：鑑賞作品を鑑賞し意見をワークシートに記入、弘前れんが倉庫HPの3DVRの操作練習。
- (2) 2回目：作品鑑賞 2月3日（金）  
内容：ヘッドセットで弘前れんが倉庫の3DVR美術館の鑑賞。  
目標：ヘッドセットによる新しい鑑賞方法を体験（没入型3DVR美術館）。
- (3) 3回目：3校同時授業 2月8日（水）  
内容：機器接続の確認、教員紹介、研究授業の目的説明、jamboardの諸注意、他校との関係作り。  
目標：生徒のjamboardの接続状況確認、各校生徒間の友好を深める：地域の「食べ物」を紹介。
- (4) 模擬授業：2月6日（月）  
内容：生徒役（大湊高校の教員4名）を対象に模擬授業。  
目標：接続状況確認、音声・映像確認、実際の機器操作の時間計測、指導内容の精選、改善点の把握。

## 6 研究授業

- |             |                                                                                                                                                                     |
|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1) 指導者名・係  | 講師:宮本ふみ(美術館)、司会: 一戸(青中央) ジャムボード:漆館(大湊)<br>Zoom ホスト・タイムキーパー:榎木                                                                                                       |
| (2) 日時・時限   | 令和5年2月10日(金)5時限(13時15分~14時15分)                                                                                                                                      |
| (3) 学年・組・人数 | 青森西高校 1年6組15名、青森中央高校2年11名、大湊高校1年4組13名                                                                                                                               |
| (3) 本時の単元名  | 県内美術館のバーチャルリアリティー(3DVR)による展覧会の鑑賞                                                                                                                                    |
| (4) 本時の目標   | ・弘前れんが倉庫美術館の協力を得てバーチャルリアリティー(VR)展覧会の鑑賞を体験する。【主】<br>・オンライン作品鑑賞を行い美意識や創造性などを感じ取り美術文化について考える。【知】<br>・他校生徒とオンライン上で意見交流をし、多様な視点から作品の見方や感じ方を深める。【思】                       |
| (5) 導入      | 弘前れんが倉庫美術館(建物)の紹介、建物の歴史、当館の特徴、展覧会の紹介                                                                                                                                |
| (6) 展開      | 3DVR「りんご宇宙」展覧会の説明、鑑賞<br>①「タカノ綾(絵画)」鑑賞 →気づきを jamboard 記入→講師が jamboard の意見を見て生徒に質問・発言→作品解説(※)<br>②「ケリス・ウィン・エバンス(彫刻)」鑑賞 (※)繰り返し<br>③開催中の展覧会について紹介:倉庫の歴史、郷土の作家「奈良美智」の紹介 |
| (7) まとめ     | 授業の感想・挨拶                                                                                                                                                            |

## 7 生徒の感想

- (1)他校の生徒との鑑賞について:「他校の生徒さんで自分の考え方に近い人がいることが嬉しかった。」「他人の意見を聞いて、理解してみようと思ったら新しい考え方も理解することができました。」
- (2)作品鑑賞について:「背景に弘前のりんごの歴史が隠されていたりして、学芸員の方から聞かなければ分からなかったことも多いので、聞くことができて良かった。」
- (3)ヘッドセットを利用した3DVR作品鑑賞について:「現実で見るとは全く違うように感じると思うので実際に見に行ってみたい。」「現実から一気にその世界観に入って凄かった。」「未来が見えた。」

## 8 検証結果からの考察

- (1)A、①、③の検証について…Zoomを使用して他校と美術館との連携授業は可能であった。また、生徒は学芸員の解説を聞くことで美意識や創造性などを感じ取り美術文化について考えることができた。jamboardを使用することで、多人数・リアルタイムの意見共有が可能となり、他校との連携で地域性や個々の意見の相違に気づくなど生徒の客観的思考や学びの視野が広がった。
- (2)B、②の検証について…連携授業のシステム概要図、接続環境の確認と練習、組織としてのICT環境の整備や研修の実施が必要である。費用面では、学校のWi-Fi環境に接続することが重要である。
- (3)考察
- ・美術教諭が減少している現在、ICTを活用した連携授業は生徒の学ぶ機会を確保するために有効な手段である。(美術館との連携等で、生徒に専門的視点で考えさせる授業が可能。)
  - ・美術教科の特性上、教師側のICT活用教育の勉強が不可欠である。(現代美術の表現、映像分野、デザイン分野、鑑賞方法について技術革新が著しいため、学校教育現場では誰でも平等にその方法に触れる機会を提供したい。)

## 9 まとめ

美術教育の本質は「表現することだろう」と考える教師は多いと思うが、GIGAスクール構想下の高校美術の指導において、学習効果を高めるために補足的にICTを活用することを推奨している。生徒達は「Society5.0」IoTやロボット、人工知能AIといった先端技術の中で、ICTを使いこなすことが不可欠な時代を生きることになる。いわば、生徒達がICTを活用できるかどうかが生きるカギとなる。今回の取り組みは、トライアンドエラーを繰り返しながらも結果的には大きな収穫があった。この実践を通して、担当者はもちろん、生徒にとっても未来の美術教育の可能性を感じるものであれば有意義であったと思う。

報告者：青森県立黒石高等学校  
教諭 佐藤 広野

## 1 行政説明（文部科学省初等中等教育局教科調査官 平田 朝一氏より）

この先の予測困難な時代において、一人ひとりが持続可能な社会の担い手としてその多様性を原動力として①質的な豊かさを伴った個人と社会の成長に繋がる新しい価値を生み出すこと、②社会全体が、答えのない問いにどのように立ち向かっていくのか、以上2点が人々に問われている。冒頭このように述べ、この先の未来において美術の授業でどのようなことを学ばせ、どのような力を身に付けさせていくのかを考える必要性が説かれた。そのうえで学習指導要領の解説をもって、近い将来の美術科教育のあるべき形について助言を行った。

### （1）芸術科（美術科）改訂の趣旨《P6, 7》

表現と鑑賞の資質・能力を相互に関連させること、生活や社会と豊かに関わる態度の育成、表現と鑑賞に必要な資質・能力を共通事項として示した点を特に重視することについて発言。

#### ●美術Ⅰの目標《P101》

- ・「造形的な見方・考え方を働かせ、」部分が特に大事。
- ・3観点、前半に「知識」、後半に「技能」の内容が記されるよう整理されていることを確認。

### （2）各科目の改訂の要点《P8～14》

#### ●「思考力、判断力、表現力等」の文では表現、鑑賞、両方の資質・能力に関する文面を記載。

- ・「造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え（発想や構想・鑑賞の能力双方）、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり（発想や構想）、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりする（鑑賞の能力）ことができるようにする。」

#### ●学習指導要領の随所で記される「主題を生成し」とは・・・

- ・「（1）絵画・彫刻」では「強く表したいことを心のなかに思い描く」こと。生徒作品に込められた主題を見つめることが生徒の内面を理解にも繋がるため、十全に主題生成を促す授業を展開すべき。

例）鑑賞活動で作者の心情や表現の工夫を読み取りながら意見交換→発想や構想の力を高める。

#### ●（イ）鑑賞領域の改善《P10》

- ・学習指導要領は、『表現』と『鑑賞』の指導を関連付けることが全面的に整理されている。

#### ●（ウ）〔共通事項〕の新設《P11》

- ・共通事項とは「造形的な視点を豊かにするために必要な知識」である。

### （3）造形的な視点

#### ●木を見る視点（造形の要素に着目）と森を見る視点（全体に着目）

#### ●鑑賞活動において、「ICT端末を効果的に用いて～」とあるが、ICT機器を使用すること自体が目的にならないよう留意すること。これまでの実践に組み合わせて有効に活用すれば良い。

### （4）内容の取扱い《P140》

#### ●主体的・対話的で深い学びの実現《P367》・・・

見通しを立てる・学習内容の振り返りを行う場面／対話の場面をどこに設定し、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか、を題材などの内容や時間のまとまりの中で考えること。

### （5）「A表現」と「B鑑賞」の指導の関連を図るには《P135》・・・

指導のねらいを十分に検討し、それを実現するこのできる適切な題材を設定する必要がある。

## 2 研究協議（各都道府県代表者）

『A表現』と『B鑑賞』の相互の関連を図った指導について」をテーマに、研究協議を実施。

### （1）分科会協議

本県は、岩手、福島、茨城、千葉、徳島の6県のグループ。授業実践上の課題や解決のための取組を発表。

### （2）全体協議

全部で分科会はA～Jの8グループ。各グループより分科会協議のまとめを発表。頻出キーワードは、

- ①連携（美術的施設、他校、他教科、他校種）、
- ②研修（校内研、高教研、指導主事向け▲）、初任、中堅、充実期）、
- ③情報共有（授業実践の好事例、
- ④他校・他県の美術教員の取り組み）、
- ⑤年間の学習内容を見通した授業計画（年間計画、シラバス）、
- ⑥学習指導要領の内容の確認

## 授業体験

### 「青森県立美術館との連携による鑑賞のオンライン授業体験」

進行：青森県立美術館

美術企画課長 工藤 健志 氏

#### 1 はじめに

本授業は、本研究大会1日目に実施した実践発表「美術館とつなぐ鑑賞教育」及び実践体験「3DVR美術館観賞体験」を経て、実際に教室と美術館とを繋ぎ、美術作品の鑑賞の授業を行う体験として位置づけられた。

授業では、クラウドコンピューティングを使用したWEB会議サービス「ZOOM」を用い、青森県立美術館と会場である青森県立青森西高等学校の教室とを繋ぎ、同館美術企画課長工藤氏による進行のもと作品鑑賞を実施した。



写真1：作品紹介①【狩野派作品の比較】

#### 2 授業概要

本研究会の体験授業では、参加会員が生徒役となり、青森県立美術館には来場をせずオンライン上で作品の鑑賞を行ったり、学芸員から解説をいただいたりする、という授業を想定した体験活動を行った。主にZOOMによるオンライン作品鑑賞を行いながら、工藤氏と対話をしたり、Googleが提供するオンラインデジタルインタラクティブ・ホワイトボード「Jamboard」による意見発表・交換をしたりし、それらの対話の中で交わされた意見に対して同氏がコメントをする「対話型鑑賞」の形で進行・実施していった。

##### (1) 青森県立美術館の紹介

はじめに、青森県立美術館について工藤氏より紹介が行われた。同館の作り、建物のコンセプトについて解説をいただき、これから作品鑑賞を行うに当たり、展示されている会場がどのような場所であるかの理解を深めた。

##### (2) 作品紹介①【狩野派作品の比較】

作品鑑賞の第1弾として、狩野永徳と狩野探幽の作品とを見比べ、二人の狩野派の作者による木の表現にどのような違いがあるかをJamboardによって、各々意見を述べた。これに対し工藤氏はそれぞれコメントを残し、両者の表現の違いについて言及していった。

##### (3) 作品紹介②【成田亨作品の紹介】

続いて、同館が所蔵する成田亨の作品を題材として、鑑賞を深めていく。成田亨は本県出身の日本のデザイナー、そして彫刻家であり、「ウルトラマン」シリーズの主人公や怪獣のデザインを行った作家である。

以下に本体験授業の実践記録として、本章(3)作品紹介②【成田亨作品の紹介】を展開する。

#### 3 成田亨作品の鑑賞

取り扱った作品は全部で5(6)つ。これら1つ1つが対話型鑑賞の形式に則り、「①発問」→「②Jamboardでの意見交換」→「③工藤氏による解説」の順に進められた。本研究会で体験した授業では、鑑賞の方法は主に2つのカテゴリーに分けられる。以下にこの2つの方法についての解説を記す。

##### (1) 授業①「クイズ形式①—怪獣デザインモデルとなった生物を問う—」



写真2,3：作品紹介②【成田亨作品の紹介】 パニラをテーマにした授業

怪獣のデザイン画制作で参考とした生物を問う課題。バニラのほかカネゴン、バルタン星人を題材に、クイズ形式で J a m b o a r d の付箋による意見発表を行った。工藤氏はすぐに答えを出さず、注目してほしい部分にカメラをフォーカスする、ヒントを出す等し、鑑賞者にイメージを深めさせる。

## (2) 授業③「比較—ウルトラマンとウルトラセブンとのデザイン画の描き方の違いを考える—」

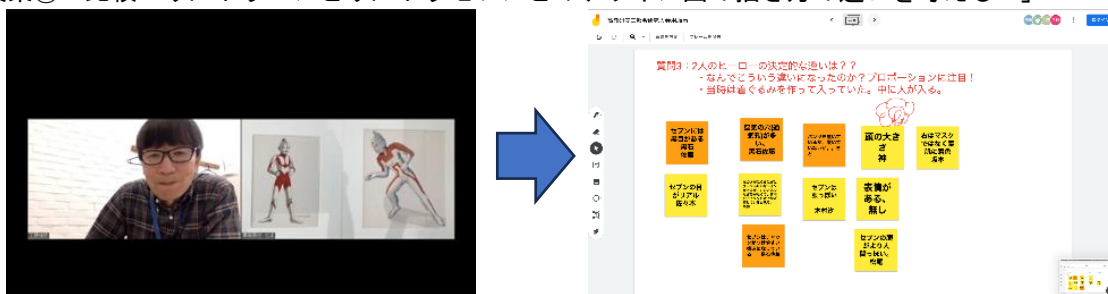


写真 4, 5 : 作品紹介②【成田亨作品の紹介】ウルトラマンとウルトラセブンの比較を行ったもの

正解は、ウルトラセブンの頭のサイズを大きく描いたこと。「中に入る人に合わせて描く必要性」という製作事情にも触れ、制約があるからこそ発揮された成田氏のクリエイティビティを紹介した。

## (3) 授業②「クイズ形式—怪獣ペスターを題材に、中にどのように人が入っているかをイメージする—」



写真 5, 6 : ペスターをテーマにした授業

ここでは J a m b o a r d 上に形を描かせ、工藤氏がコメントする流れで進行。2 人の人間が左右の星形の部分に入るのだが、「スタントマンは 1 人だけ」という固定観念の払拭にも繋がる題材となった。

最後に工藤氏より本体験授業に関する所感を述べていただいた。そこで、今回のようにスライドによる作品紹介であれば、実際の展示会場では難しい見せ方となる「並べて比較すること」ができること、美術館が取り組む教育普及事業についての説明と、学校教育と連携する機会活用の可能性等について触れていただき、体験授業は終了となった。

## 4 授業体験をした会員からのコメント

授業を終え、参加会員から以下のようなコメントが寄せられた。

- ・オンラインだと距離に関係なく学びが広がる。／ライブ感がある。
- ・( J a m b o a r d の筆談形式のおかげで) 気兼ねなく意見が出せる。
- ・クイズ形式で作品を鑑賞することで難しい作品でも、何かにフォーカスしながら鑑賞できるのが楽しく感じられる。
- ・問いと活動が明確で分かりやすい授業となった。
- ・(工藤氏の解説やヒントのおかげで) 新しい視点を心得鑑賞できた。

このように、I C Tを活用したオンライン授業体験をとおして、我々の I C Tとの向き合い方や、今後展開する授業の可能性について多くの気づきや発見を得ることができた。また美術館といった専門機関と連携を取ることによって、学校だけでは学ぶことが難しい知識に触れられることや、実際の作品に触れて鑑賞できる等、美術の深い理解に繋がるメリットが多く存在することを体感することができた。

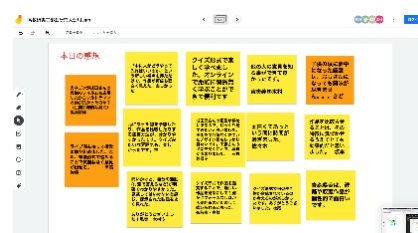


写真 7, 8 : 授業のまとめの一コマ

## 部 会 の 動 き

美術工芸部会

### 1. 5月15日(月) 総 会

○会場：青森西高等学校（青森市）

- (1) 令和4年度 庶務報告
- (2) 監査報告
- (3) 令和4年度 決算報告
- (4) 役員改選
- (5) 令和5年度 事業計画(案) 審議
- (6) 令和5年度 予算(案) 審議

### 1. 5月18日(木) 事務局長会議

○会場：青森県総合社会教育センター（青森市）

出席：宮本（事務局・八戸工業）

### 3. 8月17日(木)～18日(金) 総会・研究大会

○会場：青森西高等学校（青森市）

- ・総会 令和6年度研究大会計画書(案) 審議
- ・研究大会 研究テーマ『未来の美術教育の可能性について～ICTを活用した授業実践～』
  - 実践発表1 「写真表現から考える美術教育の可能性」  
青森県立青森東高等学校 教諭 益 山 里 奈
  - 実践発表2 「美術館とつなぐ鑑賞教育」  
青森県立青森西高等学校 教諭 柁 木 富美子  
青森県立青森中央高等学校 教諭 一 戸 香 織  
青森県立大湊高等学校 教諭 漆 舘 麻紀穂
  - 実 践 体 験 「3DVR美術館観賞体験」
  - 報 告 「令和5年度高等学校各教科等担当指導主事連絡協議会より」  
青森県立黒石高等学校 教諭 佐 藤 広 野
  - 講 義 「青森県立美術館との連携による鑑賞のオンライン授業体験」  
青森県立美術館 美術企画課長 工 藤 健 志 氏
  - グループディスカッション・情報共有「ICTを活用した授業実践について」

・参加者 部会員19名

### 4. 8月～9月 研究紀要原稿の校正と編集

担当：佐藤（黒石）

### 5. 11月7日(火)～8日(水) 第60回全国高等学校美術、工芸教育研究大会〈2023宮崎大会〉

○大会テーマ 「テゲ★テラス～未来(あした)にマップス!美術、工芸教育～」

○参集(対面)とオンライン上でのハイブリット形式での大会

### 6. 1月 「授業実践・教育課程」についての状況実態調査

担当：宮本（事務局・八戸工業）

### 7. 3月 会計監査

担当：益山（青森東）

# 研 究 テ ー マ

| 紀<br>要<br>(集) | 年<br>度 | 研 究 テ ー マ                            | 会 場                       | 会員数<br>(一・二<br>希望計) | 大 会<br>参加数 | 大会発<br>表者数 |
|---------------|--------|--------------------------------------|---------------------------|---------------------|------------|------------|
| 49            | 16     | ○美術工芸教育の新たな理念を求めて                    | 津軽伝承工芸館<br>旅 の 宿 斉 川      | 37                  | 23         | 2          |
| 50            | 17     | ○豊かな情操を育むために                         | 八 戸 北 高 校<br>ガラス工房スターブリッジ | 34                  | 21         | 1          |
| 51            | 18     | ○豊かな情操を育むために                         | 青 森 戸 山 高 校<br>ゆ ～ さ 浅 虫  | 31                  | 23         | 2          |
| 52            | 19     | ○豊かな情操を育てるために                        | 弘前市伝統産業会館<br>弘 前 市 観 光 館  | 30                  | 22         | 0          |
| 53            | 20     | ○豊かな情操を育てるために                        | 十和田市現代美術館                 | 31                  | 21         | 1          |
| 54            | 21     | ○豊かな情操を育むために                         | 青 森 戸 山 高 校               | 30                  | 21         | 1          |
| 55            | 22     | ○豊かな情操を育むために                         | 黒 石 商 業 高 校               | 32                  | 20         | 1          |
| 56            | 23     | ○豊かな情操を育むために                         | 八戸ポータルミュージアムはっち           | 29                  | 18         | 2          |
| 57            | 24     | ○豊かな情操を育むために                         | 青 森 戸 山 高 校<br>国際芸術センター青森 | 28                  | 22         | 2          |
| 58            | 25     | ○豊かな情操を育むために                         | 弘 前 実 業 高 校               | 30                  | 22         | 2          |
| 59            | 26     | ○豊かな情操を育むために                         | 八 戸 高 校                   | 31                  | 18         | 1          |
| 60            | 27     | ○豊かな情操を育むために                         | 弘 前 工 業 高 校               | 27                  | 16         | 3          |
| 61            | 28     | ○豊かな情操を育むために                         | 八 戸 高 校                   | 27                  | 15         | 2          |
| 62            | 29     | ○豊かな情操を育むために                         | 青森県総合社会教育<br>センター         | 29                  | 20         | 2          |
| 63            | 30     | ○美術、工芸の教科性を確立するために<br>～感覚を開く授業とは～    | 弘前市立観光館                   | 28                  | 17         | 3          |
| 64            | R 1    | ○美術教育と美術館教育について                      | 八 戸 高 校                   | 28                  | 17         | 3          |
| -             | 2      | (新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)               |                           | 30                  |            |            |
| 65            | 3      | ○造形的な見方・考え方を深める授業とは                  | 弘前市立観光館                   | 29                  | 17         | 2          |
| 66            | 4      | ○人とまちを育む、みんなの美術館<br>～美術教育に今できること～    | 八 戸 市 美 術 館               | 29                  | 16         | 2          |
| 67            | 5      | ○未来の美術教育の可能性について<br>～I C Tを活用した授業実践～ | 青 森 西 高 校                 | 27                  | 19         | 4          |

令和5年度 美術工芸部会